

D-②：行政/グローバル

13:00-13:25 【ビデオ登壇】

講演名：欧州議会での明確かつ多言語でのコミュニケーション

スピーカー：Angelika Vaasa

欧州議会 翻訳総局 クオリティコーディネーションユニット長

欧州議会（EP）の翻訳サービス 品質管理担当。欧州議会の「市民言語政策」と呼ばれる「プレインランゲージ」イニシアティブに関与。ISO の翻訳・プレインランゲージ規格でも活動中。



講演サマリー：

欧州議会は、直接選挙で選出される欧州の機関です。また、欧州 27 カ国の 5 億人近い欧州市民と、24 の公用語で明確にコミュニケーションをとるという特別な義務を負っています。同議会の言語専門家の日々の仕事は、このコミュニケーションを可能にすることです。しかし、24 の言語で書き、翻訳すること、明確に理解されることは全く別のことです。

明確に伝えるための私たちの戦略には、次のようなものがあります。

- コンテンツを各国の文化やコンテキストに合わせる
- 現代の情報消費方法（テキスト、字幕、オーディオ製品）を取り入れる
- プレインランゲージの利点についての認識を向上させる

13：30-13：55 【ビデオ登壇】

講演名：持続可能な社会に向けて公正かつ明確に - ノルウェーにおけるプレインランゲージのストーリー

スピーカー：Torunn Reksten

ノルウェー政府 言語諮問委員会 ユニット長代理/ISO-TC37 委員

プレインランゲージ専門家。ノルウェーでのプレインランゲージを主導するノルウェー言語諮問会のユニット長代理。2008 年以来、同国の公共コミュニケーションの新しい基準であるプレインランゲージの認知度を高めるため、中心的な役割を果たしてきた。プレインランゲージ国際規格の ISO ワーキンググループ 11 の起草委員

講演サマリー：ノルウェーがプレインランゲージを導入した理由、また導入に伴う課題とメリットについて紹介します。



14：00-14：25 【ビデオ登壇】

講演名：行政の説明責任とプレインジャパニーズ

スピーカー：山田 肇

情報通信政策フォーラム（ICPF）理事長

東洋大学 名誉教授

科学技術振興機構「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」研究開発領域総括。1990 年代より情報アクセシビリティなどの標準化活動に参加し、現在は高齢社会対応の国際標準化活動の日本代表を務めている。



14 : 30-14 : 55

講演名 : なにを主語にして文を書くべきか

スピーカー : 中村 哲三

ASD-STE100 Maintenance Group、ASD-STE100 認定トレーナー
Certified TCTrainNet Trainer for Technical Communication トレーナー、ISO TC
37, WG 5/11 、日本テクニカルコミュニケーター協会会員



講演サマリー : 近年、なにを主語にして文を書くべきかということが議論されるようになってきました。「トピック」を主語にして客観性を重視して書くか、それとも、「あなた」を主語にしてわかりやすさを重視して書くかということです。アカデミーや ISO の世界では前者が重要視されていますし、一方、ビジネスの世界では後者を使用することが推奨されています。はたして、どちらを使用するほうが正しいのでしょうか。